

ポスター | 1-11 心不全・心移植

ポスター

心不全①

座長:高室 基樹(北海道立子ども総合医療・療育センター)

Thu. Jul 16, 2015 4:50 PM - 5:20 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

I-P-055~I-P-059

所属正式名称: 高室基樹(北海道立子ども総合医療・療育センター 小児循環器内科)

[I-P-058]甲状腺機能亢進症を呈した左心低形成症候群の心不全管理

○宮本 辰樹¹, 牛ノ濱 大也¹, 中村 真¹, 佐川 浩一¹, 石川 司朗¹, 中野 俊秀², 角 秀秋² (1.福岡市立こども病院 循環器科, 2.福岡市立こども病院 心臓血管外科)

Keywords: 新生児バセドウ病, 心不全, 左心低形成症候群

【背景】妊婦の0.2%が Basedow病を有するが、母体の甲状腺刺激抗体が胎児に移行し、1%に新生児 Basedow病を発症する。特に母体が甲状腺摘出術や放射線治療などの治療後では、新生児 Basedow病の発症リスクが高い。我々は、甲状腺機能亢進症を呈した左心低形成症候群の症例を経験した。新生児 Basedow病に複雑心奇形を合併した報告は稀で、周術期管理を行ったものは極めて貴重と考えられ、これを報告する。【症例】日齢3, 女児。母体は Basedow病のため放射線治療を受け、妊娠中は甲状腺機能低下症に対する甲状腺ホルモン補充と、胎児甲状腺機能亢進に対するヨード内服にて管理された。在胎37週1日に前期破水し、分娩誘導で経膈分娩により出生。児は出生直後から多呼吸、呻吟、頻脈を呈し、酸素を投与されるも改善なく、SpO₂低下と哺乳力低下を呈した。日齢1に心雑音と左室心筋肥厚に気づかれ、前医 NICUで左心低形成症候群と診断された。新生児 Basedow病を発症していたため、チアマゾール・ヨード・β遮断薬を投与された。当院へ転院後、日齢5に両側肺動脈絞扼術を施行。心房間交通が狭小化したため、日齢12に心房中隔裂開術を施行した。甲状腺治療としてチアマゾール・ヨード・β遮断薬を投与し、集中治療管理を行った。日齢39に甲状腺刺激ホルモンが上昇し、遊離サイロキシンが低下した。日齢47に Norwood手術を施行したが、術後1日で気管内吸引を契機に突然心拍数が低下した。蘇生処置を行うも反応せず永眠した。【結語】 Basedow病合併妊娠は胎盤を介して甲状腺刺激抗体が胎児へ移行し、胎児の甲状腺機能を亢進させることがある。甲状腺ホルモンが心奇形による心不全を増強し、周術期管理に難渋した。先天性心疾患を合併する場合には、積極的に胎児期から甲状腺の治療を行う必要があると思われる。